

1. 評価結果概要表

作成日 2008年9月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0873800767
法人名	医療法人 盈科会
事業所名	グループホーム阿見
所在地	茨城県稲敷郡若栗2957-5 (電話)029-889-2767

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年9月6日	評価確定日	平成20年12月22日

【情報提供票より】(平成20年 5月30日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 8人, 非常勤 4人, 常勤換算	11.6人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	22,050 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200円

(4)利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	16名	男性	2名	女性	14名
要介護1	8名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低	69歳	最高	96歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	東京医大霞ヶ浦病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、自然豊かな環境に位置している。利用者は、隣接する老人保健施設にいる友人を訪ねたり、畑仕事などを楽しんでいる。職員は、忙しいなかでも利用者の希望に添えるよう、日々のケアを考えている。今後も、地域や家族との連携を更に深めながら、利用者のその人らしい生活を支える支援が期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受け、日頃の利用者の様子が家族に分かるように、ホーム便りを作成した。また、洗剤などの薬品類の保管についても改善を行なっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度開催されている。参加できない家族の意見をもらえるように取り組んでいる。また、外部評価の結果についての報告がされている。行政からの参加がなかなか得られない状況にある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りの作成や、健康状態の変化に応じた連絡・報告を行なっている。また、面会時などは、常に意見や要望を確認する取り組みをしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の友人が散歩に付き添ってくれたり、隣接のデイケアに遊びに行ったりしている。法人のイベントに地域住民の参加があり、一緒に参加することで交流を持っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者がその人らしく生活するための環境作りを目指す理念が掲げられている。しかし、地域との関わりを目指した理念の提示はされていない。	○	利用者が地域の一人として当たり前の生活が送れるよう、地域との連携を深められる理念の提示が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議の内容を行事・業務・入居者サービスに各週で分け、理念の共有とともに実践に向けて話し合われている。		再度、理念を作り上げるところから職員と話し合う場を設け、今後の理念の共有を深めていくことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園児の訪問や、地域の方の畑を借りて作業を行ったりしている。利用者の友人との交流も行なわれている。		今後は、ホーム独自のイベントへのお誘いや気軽に立ち寄りてもらえる場として更に開かれたホームとなることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価の結果を受けて、改善に向けての話し合いは行なわれているが実践にまでは至っていない事があった。	○	全職員で評価の意義を再度話し合い改善計画の作成により、具体的な改善策が見つけられることに期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催されており、現在のホームでのケアの取り組みなどを議題に挙げて意見交換を行なっている。		今後は、議事録を参加者以外の家族や行政等に配布し積極的に働きかけることで、参加者が増えていくことを期待したい。

茨城県 グループホーム阿見

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者やホーム運営に関する介護保険上の相談はその都度行なっている。中学校の慰問などの受け入れやパンフレットを置かせてもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には日頃の利用者の様子を伝えており、ホーム便りも作成している。また、体調の変化やインシデント・アクシデントについても報告している。		希望の家族だけでなく、全家族に対しお小遣いなどの金銭管理の報告をすることにより安心感を得られると考える。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見や要望、苦情等を受け付けられる体制づくりをしており、ホール内に掲示してある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職での利用者への影響を配慮し、寂しさを軽減できるよう取り組んでいる。新しい職員に対しても、利用者が安心できるような関わりを指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、資格取得に対する講義や介護技術についての勉強会がある。外部の研修には参加が難しい場合がある。	○	外部研修を受けた後の報告書や資料を用いて、ホーム内での勉強会や報告会を行なうことで、ケアの質の向上につながることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内5箇所ของกลุ่มホームで管理者が集まり、情報交換や事理検討などを行なっている。今後は、職員同士の交流やホームの見学会なども行なっていければとの話し合いがもたれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学を行いどのような場所であるかを説明し、雰囲気を感じてもらえるよう取り組んでいる。管理者は体験利用なども勧めていきたいと考えている。		ホーム側の受け入れ体制作りとして利用料の設定など規定の整備を行い体験利用など利用者と一緒に過ごす時間を作っていき、馴染みの関係づくりをしてからの入居へつながることを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	礼儀作法や調理方法、地域の慣わしごとなど利用者から学ぶことは多くあり、それを活かしたケアの提供を職員は行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望をできるだけ反映したケアを行なっている。また、思いの表出が困難になっている利用者には、コミュニケーションのなかから把握するよう努めている。		利用者の生活歴の把握を意識的に行うことで、より利用者の意向に沿ったケアが提供され则认为。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの希望を確認し介護計画を作成している。面会時や郵送などで同意を得ている。	○	利用者との日々の会話や家族からの要望と合わせた生活上の課題を把握するよう努め、それを活かした介護計画の作成が求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間を設定しているが、利用者の状況と合わせての見直しができていない。	○	個々の日々の記録を介護計画と連動させ、介護計画の評価の材料とし、再度介護計画を見直す一連の作業を行なえるよう今後に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望や利用者の要望に合わせて居室の配慮がされている。認知症についての相談や見学の受け入れなども随時行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の老人保健施設の医師や看護師が常に健康相談に応じている。また、協力医療機関の医師が月2回以上の往診を行なっている。緊急時受け入れの可能な協力病院とも連携を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの受け入れは行なわない方針であるが家族の要望を聞きながら相談している。また、法人の老人保健施設との連携を図っている。	○	ホームとしての方針を明確にし、利用者や家族に提示し同意を得ることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉遣いに対して指導を行なっている。ホーム便りに掲載する写真については口頭での同意を取っている。	○	個人情報の取り扱いについて書式の整備を行い同意を得ていくことが望ましい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて日々の生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しや畑作りでできた野菜を使っておかずを作ったり、利用者の楽しみとなるよう食事の支援がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせた時間帯での提供を行ないながら、拒否のある利用者に対して、足浴など臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事や畑仕事など、個々の利用者の持っている力に合わせた役割があり、利用者自身が楽しみながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩では公園にも行き、外食など戸外へ出掛ける機会はある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかけることの弊害を十分理解したうえで、戸外に出掛けた利用者の危険防止のため、家族の同意を得ながら施錠している。		今後も、対応策を常に話し合いながら、必要時以外での鍵を掛けないケアの実践を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携した避難訓練の実績はまだない。	○	早急に消防署の指導の下での訓練の実施や、ホーム独自の避難訓練の実施が必要である。また、非常持ち出し用の備品の整備も必要となる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量の確認と記録を行なっている。必要時は食事の形態の工夫をし、経口摂取できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や利用者が作成した貼り絵などを展示し、季節を感じられるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の趣味のものが置かれ、落ち着く空間作りに気を配っている。		